

●●●学生自主活動への支援●●●

本九祭を終えて

第十九回本九祭実行委員長 熊本大学医学部 医学科三年 小川 徹

この度は本九祭への助成金をいただきまして誠にありがとうございました。

「本九祭」という名前は熊本大学医学部キャンパスのある本荘・九品寺地区の頭文字に由来しています。かつては「医学展」として我々学生が学んだことを地域社会に向けて発表していたのですが、その医学展にさらにエンターテインメント性を加え、「より地域に密着した学園祭でありたい！」という願いから誕生したのが「本九祭」です。

さて、第十九回目を迎える今年のテーマは「医—LOHAS—」です。日本でも様々な場面に用いられているこのLOHASという言葉には、「環境や健康、自己啓発・精神性の向上に関心が高く、それらを実際に行動に移す」という意味が含まれています。みなさんはどちらかという環境に対するイメージだと思えますが、実は健康に関しての意味合いもあるのです。熊本大学の学生や地域の方々に健康や病気の意識向上の場にして欲しい！という想いをこのテーマに込めました。

本九祭に来ていた方々にはアカデミック・講演企画などを通して少しでも、LOHASにつながるきっかけを提供することができたのでは、と思います。アカデミック企画では発生医学研究所の方々の主導のもと、山中先生のノーベル賞受賞でも話題のiPS細胞の展示をはじめとして、実行委員の企画である山

岳医療に関する展示など多岐にわたる医学の展示を行いました。講演企画では加藤鷹氏による性感感染症予防の講演を行い、多くの方に、意外に身近にある性感感染症からパートナーを守るための術、心構えを感じ取ってもらえたのではないのでしょうか。

また、今年の本九祭もエンターテインメント性の企画を行いました。一日目には軽音のライブ、マジックショー、部活動対抗戦、ミスコン、二日目にはお笑いライブ、ミスターコン、ビンゴ大会などたくさんさんのイベントを行いました。

特に、二日目のお笑いライブでは、TVでも大活躍の九州出身の博多華丸大吉さんにお越しいただき、会場は大盛況でした。

本九祭に来ていただいた方はもとより、私たち運営側も多くを楽しみ、学ぶことができました。六月から始まり長かった運営期間も実行委員のみんなの尽力と、本九祭を支えてくださった機関の方々の多大な支援のおかげだと深く感謝しています。

来年以降も伝統のある本九祭に、各年度の実行委員である医学生独自のアイデアと熱意が加わっていくことでさらに充実したものとなることを祈念して感謝の言葉とさせていただきます。

「蕃滋祭」の開催

蕃滋祭実行委員長 熊本大学薬学部薬学科 三回生 福永 雅樹

この度は熊本大学薬学部の蕃滋祭運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。肥後医育振興会のお力添えにより、私たちは、平成二十四年十一月三日(土)、四日(日)に大江地区におきまして薬学部蕃滋祭を盛大に開催しました。薬学部学生一同を代表してここに報告いたしますとともに、心から感謝申し上げます。

蕃滋祭は、薬学部の近隣に住んでおられる地域の皆様をはじめ、卒業生の方々にさらにはこれから薬学を目指す方々の方々に対して、現在の熊本大学薬学部の校風を体感していただき、薬学に少しも興味を持っていただくために、毎年開催しております。

昨年は充実した薬学展を開催できるようにと、薬学展改め「蕃滋祭」という名称に変えさせていただきました。例年以上に力を注いで行いました。本年は、さらに充実した薬学展を開催できるように、そしてさらなる発展を願って引き続き「蕃滋祭」という名称で開催しました。「蕃滋」とは、熊本大学薬学部の基となる薬園「蕃滋園」を由来としています。「蕃滋園」という名は、福利厚生施設「蕃滋館」として、今もなお熊薬で受け継がれており、施設内には学生食堂、購買所などが設けられ、学生及び教職員が利用する憩いの場となっております。

さらに今年「Yakudou」(躍動、薬道)をテーマとし、これから多くの熊本大学薬学部生が薬学の分野で活躍することを願ってこのテーマに決定しました。今年も様々な企画を行い、模擬店を出店しました。公開実験としては、毎年人

気な火傷によく効く紫雲膏の作成や水道水や河川など身近な水の硬度測定、錠剤作りを行いました。模擬授業はともく二ツクな先生が行ってくださったため、参加者の方々にも有意義な時間が提供できたかと思えます。さらに模擬薬局では、実際に地域の方々にも薬局ではどのようなことをしているのか体験してもらい、薬学部全体でいろいろな企画を体験できるいい機会だったと思います。また今年も健康に配慮した薬膳料理の販売や研究室や部活動ごとの模擬店を出店し、地域交流や学生間の絆をより深く強いものにしてきたと思えます。体育館にはステージを設けており、約一〇組の軽音楽部のバンドによるライブをはじめ、ミスコンなどさまざまなステージ企画も実施しました。そのほかにも蕃滋祭開催にあたって熊本大学の魅力を伝える標語作りを薬学部生に呼びかけて作ってもらい、優秀な作品を数多く作りました。

今回の蕃滋祭を通して多くの方々に熊本大学薬学部と薬学についてより深いご理解とご支援を受けたと感じております。来年も今回のような地域の人々との触れ合いの場となる蕃滋祭にしたいと思えます。また、今回の蕃滋祭の運営にあたって学生が切磋琢磨し、向上心と愛校心を培うことができました。このような蕃滋祭を開催できるのも偏に薬学部を支援してくださる皆様のおかげだという事を常に心に留め、これからもいっそう薬学部と医療全体の活性化のために学部生一同一丸となって邁進していきたいと思えます。また、地域と医療の架け橋となるべく、これからも蕃滋祭を通して地域の皆様に少しでも薬学部を知っていただけるように頑張りたいと思えます。

最後に、肥後医育振興会と熊本の医療の益々の発展を祈念してご報告とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。